

## J Aの生産部会と行政の意見交換

一関地方農業振興に係る懇談会



農業振興に対し活発に意見を交わしました

J Aは6月1日、一関市や藤沢町、県、全農、J Aの生産部会の委員ら約60人が出席し、千厩町のサンプラザ及善で一関地方の農業振興について意見交換を行いました。

鈴木組合長が「農業を取り巻く状況は大きな課題が山積しているが、今こそ生産者やJ A、行政が連携しながら、農業振興、農家の再生を図っていききたい」とあいさつしました。両市町から平成22年度の農業振興計画や基本方針、めぐみブランド事業など説明され、生産部会からは、学校給食や福祉施設、誘致企業でのいわい東米の消費拡大やビニールハウスや省力化機械等への導入助成、いわて南牛の販路拡大に伴う消費拡大や支援など様々な行政に対する意見や要望が出されました。

## 造花を使ったコサージュ作り

J A生活シスター研修会



菅原シスターからアドバイスを受けるシスターたち

J Aは6月23日、千厩農村環境改善センターで生活シスター研修会を開き、造花を使ったコサージュ作りを行いました。

研修会は、今年の3月に委嘱を受けたシスターら15人が参加し、シスターとしての特技や趣味の幅を広げる目的で行われています。講師の菅原君代シスターが「完成イメージをもってから作りましょう」と各参加者にアドバイス。参加者は「すてきだね」「イメージ通りにいかない」と、それぞれ親睦を深めながらコサージュ作りを楽しんでいました。生活シスターは、各種活動のサポートや地域の課題研究を進めながら円滑で心豊かな地域づくりに貢献しています。

## いわて南牛を贈呈

日本代表藤原麻起子投手激励会



藤原投手にいわて南牛の目録を贈呈する鈴木組合長

第12回世界女子ソフトボール選手権大会の日本代表として出場した千厩町出身の藤原麻起子投手を応援しようと、激励会が6月2日、千厩町のマリアーヂュで開かれました。地元の小中学生やソフトボール関係者ら約300人が国際舞台での活躍を期待しました。

千厩中学校ソフトボール部や地元関係団体などから力強い応援エールや花束などが贈られ、J Aからは鈴木組合長が「チーム皆さんで食べて、いわて南牛パワーで頑張ってください」と、いわて南牛の目録を藤原投手に手渡しました。

藤原投手は「代表に選ばれたのは、皆さんの支えがあつてのおかげ。世界一になるのは大変だが、結果を出して皆さんに感謝の気持ちを表したい」と決意を語りました。

## 家庭菜園に役立てよう

J A 女性部川崎支部視察研修会



家庭菜園のポイントを学ぶ部員

J A 女性部川崎中央支部（佐々木京子支部長）は、6月16日に参加者17人で、榎渡辺採種場瀬峰研究農場の視察研修会を行いました。視察は圃場中心の予定でしたが、雨天のため、主にハウス内での研修となりました。

ミニトマトのハウスでは、思わず手を伸ばしたくなるほど赤い実がたわわに実っており、同農場の山蔦さん（さん）から、「代表者5名を選んでください」と言われ、5名がその場で新品種の「プチぷよトマト」を試食しました。「皮が薄い」「おいしい」との声。このミニトマトは、作りにくい品種でも傷みや早く、市場出荷には向かないそうで、地産地消の直売所にお勧めとのことでした。

## 農家組合の活動を確認

業務推進連絡委員全体会議



農家組合の活動を確認する業務推進連絡委員

J A は6月11日、千厩農村環境改善センターで業務推進連絡委員（農家組合長）全体会議を開き、173人が出席。農家組合活動の機能を確認しました。

会議に先立ち、佐藤鉦一専務が227人の委員の代表6人へ委嘱状を交付しました。菊地一久農家組合協議会長は「農業の振興や集落づくりにつながる農家組合の活動に取り組みよう」と呼び掛けました。

会議では、業務推進連絡委員の役割や農家組合活動の機能、J A の事業計画を説明し、意見を交わしました。また、今年度から営農センターごとにモデル農家組合を設置し、6組合が指定を受け積極的な取り組みを行います。研修会では、農事組合法人おくとま農産の佐藤正男組合長が「集落営農が元氣な地域をつくる」と題し講演を行い、身近な体験談に出席した委員は関心を持ちながら聞き入っていました。

## 無農薬有機水田で田植えを体験

田んぼの学校



泥だらけになりながら田植えをする参加者

田んぼの学校の田植え体験が6月5日、大東町大原で開かれました。一関地方有機農業推進協議会と大東町レクリエーション協会大東地区あそびの城が、稲作や環境保全型農業に対する理解を深め、有機栽培農業者との交流や食育の増進を図ろうと行っています。

市内の親子やいわて生協東いわいコープのメンバーら約40人が参加し、35坪の無農薬有機水田に、小島幸喜代表ら有機農業者の指導を受けながら、1人3列ずつ「ひとめぼれ」の苗を丁寧に植え付けました。大原小学校4年生の鈴木瀬那くんは「温くて、泥の感触が気持ちいい」と話し、この田んぼの学校を毎年楽しみにしています。

また、田植機の乗車体験や有機栽培の土と地元産の菜種油を使ったバケツ稲づくりも行い、子どもたちは家にバケツを持ち帰り有機栽培に挑戦します。

## さわやかな汗流しリフレッシュ

J A 女性部千厩中央支部レクリエーション大会



熱戦を繰り広げたレクリエーション大会

J A 女性部千厩中央支部（小野寺美智子部長）は6月24日、千厩体育館でレクリエーション大会を行いました。女性部員ら約250人が参加し、さわやかな汗を流しリフレッシュしました。

競技は管内の4支部対抗戦。女性部やJAにちなんだ競技名を付けた工夫を凝らした11種目の競技で熱戦を繰り広げ、奥玉支部が優勝しました。競技の合間には、各チーム、息の合った応援合戦で一層盛り上がりました。また、農家組合長ら男性陣も多数参加し、日ごろの農作業の疲れを癒しました。

同大会は、女性部員相互の親睦と交流を図り、組織活動の向上などを目的に毎年開かれ、千厩農協時代から33年続いています。

## 渡辺採種場で家庭菜園づくり研修会

J A 女性部藤沢中央支部



農場職員から栽培のポイントを聞く部員

J A 女性部藤沢中央支部（佐藤和子部長）は6月4日、(株)渡辺採種場瀬峰研究農場で、家庭菜園づくり研修会を開きました。

同女性部は、毎年この時期に研修会を行っており、今年も女性部役員や家庭菜園学習会の圃場提供者18人が参加しました。

農場内の会議室で農場職員から、野菜の種まきや定植、栽培のポイントの指導を受け、圃場で野菜ごとの栽培について説明されました。参加者は熱心に話を聞き「病害虫予防をしてしっかり管理していきたい」と話していました。

## 全職員で知識習得、安心な地域づくり

認知症サポーター養成講座



認知症サポーター養成講座を受講するJA職員

J A は、全職員を対象に「認知症サポーター」の養成に取り組み、認知症の患者や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

6月18日、藤沢町の縄文ホールで開いた養成講座には、約240人が参加。一関地区広域行政組合の千田修社会福祉士が講師を務め、「サポーターは認知症を正しく理解する応援者。無関心でなく自分たちの問題であると認識をもつことが大事」と説明。受講者には同サポーターの証の「オレンジリング」が配られました。

佐藤鉦一専務は「今回の取り組みは、地域に密着して事業を行っているJAとして大事なことで、職員一丸となり地域に貢献していきたい」と述べました。

## 野菜づくり講習会

J A 女性部室根中央支部



熱心に聞き入る部員

J A 女性部室根中央支部（佐藤幸子支部長）は6月15日、J A 室根支店で秋野菜づくり講習会を開催しました。

（株）渡辺採種場の氏家初郎さんを講師に、秋蒔き種子予約注文が始まる時期にあわせ、種子の選び方について学ぶことを目的に開催されました。

講習会では、すでに生育している春野菜の育苗管理や、秋野菜種子の選び方・畑の土作り、病害虫防除について学習し、参加者は講師の話に熱心に聞き入り、質問が飛び交うほど活発な講習会となりました。

10月には、冬になる前の管理方法について勉強する予定で、1人でも多く部員や関心のある方が参加してくれることを期待しています。

## 飼料用米でおいしい放牧豚に

千厩・藤沢地区飼料用米利活用推進協議会



会員で放牧豚の試食会が行われました

千厩・藤沢地区飼料用米利活用推進協議会では、6月14日、千厩町小梨の、みなみ交流センターで飼料用米を給与した放牧豚の試食会が行われました。

試食会では、（株）アーク代表取締役でもある同協議会の橋本晋栄副会長が、飼料用米15%、30%、50%給与した3種類の放牧豚をA、B、Cと仮名し用意。試食して、どれがどの放牧豚か隠してアンケートを行いました。参加者からは「どれもおいしい」「Bがやわらかくておいしい」などの感想が聞かれ、アンケートの結果おもしろかった順は、1番目が30%給与、2番目が50%給与でした。橋本副会長は「飼料用米を多めに与えた豚がおいしいというアンケート結果がでて安心した。個体差や好みもあるので一概にこの結果を受け止める訳ではないが、今後も食味調査を重ねブランディングしていきたい」と話しました。

## 園児が小菊の苗を定植

室根町の折壁保育園



小菊を定植する園児

折壁保育園（加藤つる子園長）は6月10日、43人の園児が小菊苗の定植を体験しました。この取り組みは、岩手大学が設立した「いわてアグリフロンティアスクール」でアグリ管

理士に認定された花き栽培農家の小山浩さんの指導で行われ、「みんなのちびっこのおえん」と書かれた圃場には、小菊400株、ひまわり300粒が植えられました。今年で3回目の開催のため、園児の中には経験者もあり、みるみるうちに400株の苗は畑に植え付けられました。初めて挑戦した小野寺咲妃ちゃんは、「面白かった、どんなお花が咲くか楽しみ」と笑顔で話してくれました。「土や植物・自然に触れることが少なく、いい機会になりました」と加藤園長が感謝の言葉を述べ、9月には収穫も体験するため「大きくきれいに咲きますように」と、全員でお祈りをしました。